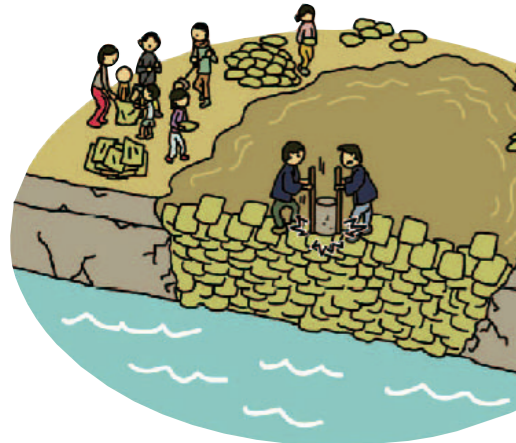


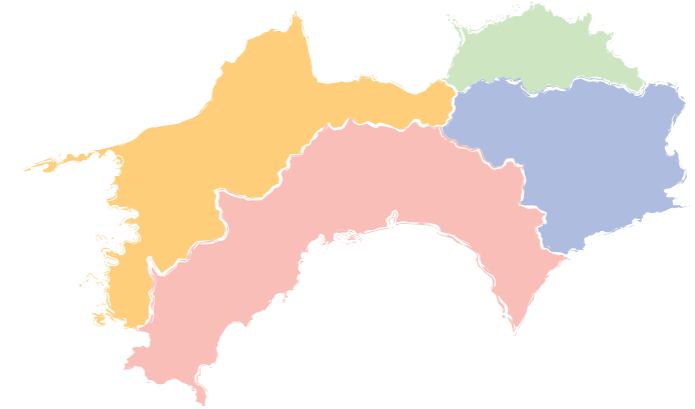
先人の教えに学ぶ



# 四国防災八十八話

先人の教えに学ぶ  
四国防災八十八話

先人の教えに学ぶ  
四国防災八十八話



## 発刊にあたって

国土交通省 四国地方整備局

局長 祢屋 誠

四国は、地形が急峻なうえ地質も脆弱なことから、常に水害や土砂災害の危険にさらされていますが、その一方で大規模な渇水にも見舞われています。日本国内の年間降水量の推移を見ると、地球温暖化の影響でしょうか、降水量の変動幅が大きくなり、豪雨と渇水の頻度が高くなっています。また、四国にとって大きな脅威である東南海・南海地震の今後三〇年以内の発生確率も大変高くなっています。

このような厳しい環境の中で、だれもが安全に安心して暮らせる四国を創ることが、私たち四国地方整備局の大きな使命の一つです。このため、水害や土砂災害対策、各種構造物等の地震対策、災害に強い道路ネットワークの整備等を効果的かつ効率的に進めているところです。

しかしながら、被害の最小化を図るには、これらの対策に加えて防災体制の強化や防災情報の共有等のソフト的な対策が必要です。このため四国地方整備局では、地域全体の防災力を強化するために、行政間の連携、行政と地域住民の連携、地域住民同士の連携といった視点で様々なソフト的な取り組みを進めています。

先の阪神・淡路大震災では、災害対策においては自らの身を守る「自助」、地域住民やボランティア等の連携による「共助」の果たす役割が大変大きいことを学びました。全国に先駆けて過疎化や高齢化が進展している四国では、これらの活動は特に大切であると考えられますが、地域全体で「自助」、「共助」を充実するには、防災教育や防災意識の向上が重要な役割を果たすこととなります。

本冊子は、このような視点から、防災教育や防災意識の向上のための教材として活用していただけるよう、四国各地に残る災害に関する言い伝えや体験談を教訓集として取りまとめたものです。取りまとめにあたっては、「四国防災八十八話検討委員会」を設置し、専門的な視点からの検討をお願いしました。本冊子が災害に関心を持つきっかけとなり、地域の防災力向上の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本冊子の発刊にあたりご協力頂きました「四国防災八十八話検討委員会」委員各位ならびに体験談を応募いただきました方々を始めとする関係各位に、改めて厚くお礼申し上げます。

## はじめに

四国防災八十八話検討委員会

委員長 村上 仁 士

四国は台風常襲地帯といわれ、毎年のように豪雨による洪水や土砂災害、沿岸域における高潮や津波などの災害に見舞われています。また、これまで四国を襲ってきた東南海・南海地震の発生確率は、時計の針が進むとともに確実に高くなっています。

一般に、災害のリスクは、自然現象や事故などの危険要因と地形状況や防護水準等の脆弱性（素因）を乗じたものを社会の対応力で除すことにより評価することができます。すなわち、災害を誘引する外力が大きければ大きいほど、その結果としての被害も大きくなる可能性が高くなりますが、同規模の外力であっても、日頃の災害に対する備えのあり方によって被害の程度が左右されます。従って、地域の弱点を知り、適切な施設整備などのハード面での対策により防護水準を向上させることが重要となります。さらに、災害に関する知識や経験、文化などが反映される地域社会の対応力を充実することにより、災害のリスクを軽減することが可能になります。

現実には、経済性やフィージビリティの観点から、全てをハード面での対策で対応することは困難です。災害情報をいち早くとらえ、住民が自主的に避難行動を起こすことができるような社会の対応力を向上させる取り組みを効果的に組み合わせることが大変重要になります。

これまで多くの災害を経験してきた四国では、各地に災害に関する言い伝えや災害から生き延びた体験談が数多く残されています。これらの言い伝えなどを体系的に整理し、経験や知識として共有することは、地域社会の対応力すなわち防災力の向上に大いに役立つに違いありません。

四国の防災分野の研究者一二名で構成される「四国防災八十八話検討委員会」は、四国各地に残る水害、土砂災害、地震・津波、高潮、渇水に関する物語や言い伝えなどから、住民の心に響き、防災意識の向上や災害時の行動に活かすことができる教訓・防災話を抽出することを目的として設置されました。今回新たに住民公募によって集められた体験談も含めた膨大な資料からの抽出作業に当たっては、史実に基づくこと、今日的な教訓が含まれること、読者を惹きつけること、災害の種類や発生した時代などを考慮し、最終的に四国八十八ヶ所に因んで八十八話を選定しました。

四国の防災文化の集大成とも言えるこの冊子を通して、尊い犠牲を伴った先人の経験や知恵を自分の経験や知恵として是非役立てていただきたいと思います。災害に対峙しているのは他ならぬ私たち住民自身なのです。



## もくじ